

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 収容定員を変更する組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
①収容定員を変更する組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(名称、入学定員(編入学定員)、収容定員、所在地)	
②収容定員を変更する組織の特色・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(2) 人材需要の社会的な動向等・・・・・・・・・・・・・・・・	2
①収容定員を変更する組織で養成する人材の・・・・・・・・	2
全国的、地域的、社会的動向の分析	
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の・・・・・・・・	3
全国的、地域的動向の分析	
③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域・・・・・・・・	4
④既設組織の定員充足の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(3) 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・	5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果・・・・・・・・	5
②競合校の状況分析・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)	
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由・・・・・・・・	8

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 収容定員を変更する組織の概要

①収容定員を変更する組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
四天王寺大学短期大学部 保育科	40	80	大阪府羽曳野市学園前 三丁目2番1号
四天王寺大学短期大学部 ライフデザイン学科	40	80	大阪府羽曳野市学園前 三丁目2番1号

令和7（2025）年度より、四天王寺大学短期大学部（以下「本学」という。）の収容定員を変更する。

②収容定員を変更する組織の特色

＜養成する人材像＞

・保育科

聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む、保育実践力及び社会援助技術の基本を身につけた保育者を養成する。

・ライフデザイン学科

聖徳太子の仏教精神をもとに、豊かな人格形成・修養に努め、生活全般からビジネスにいたるまでの幅広い教養と実務的な専門性を備えた、社会（組織）に貢献できる人材を養成する。

＜学位の分野を踏まえた収容定員を変更する組織の特色＞

・保育科

仏教の学びを通じて、学生一人ひとりの人間的成長をめざし、人間性豊かで慈愛に満ちた保育者を養成する。“子ども主体の保育”を目指すために、「実践」と「探究」を積み重ね、確かな保育観を培う。

・ライフデザイン学科

8 フィールド 24 ユニットで構成される専門教育科目では、自分の興味・関心にあわせた授業を組み合わせられる。そのため、幅広い教養を身につけることができ多彩な将来をめざすことができる。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

<保育科>

近年、少子高齢化が進む中で、厚生労働省により平成 25 年（2013）年度から始まった「待機児童解消加速化プラン」では、平成 29 年（2017）年度末までに政府目標を上回る約 53.5 万人分の保育の受け皿を確保することができた。

また、平成 30（2018）年度からは「子育て安心プラン」により令和 2（2020）年度末までの 3 年間で約 26.1 万人を確保した。これにより、保育所等の数や、定員数、利用児童数は増加し、保育士数も増加している。保育の受け皿拡大に取り組んだ結果、令和 3（2021）年 4 月の待機児童数は調査開始以来最小の調査結果になった。

しかしその一方で、保育士の有効求人倍率は「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」によると、平成 24（2012）年の 1.05 倍から令和 3（2021）年には 2.50 倍と上がっており、依然として全職業計を上回る高い水準で推移していることがわかる。また、大阪府内の令和 4（2022）年 1 月時点の保育士の有効求人倍率は 3.92 倍と全国平均の 2.92 倍を上回る高い倍率になっている。近隣府県の有効求人倍率も和歌山県 3.59 倍、奈良県 3.26 倍、京都府 2.93 倍、兵庫県 2.53 倍と高い倍率になっていることから、依然、保育人材の確保が求められている。【資料 1】

<ライフデザイン学科>

本学科は生活の基本である、衣・食・住に加えビジネスやブライダル等さまざまな要素を学ぶことができ、幅広い教養を身につけることができる学科である。表 1 のとおり就職率は過去 3 年間 95%以上で平均 98.6%と高い就職率となっている。

このことから、ライフデザイン学科が養成する人材については、社会的、地域的な人材需要にあったものであり、今後も社会の期待に応えていけるものと考ええる。

（表 1）ライフデザイン学科就職率

学科名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
ライフデザイン学科 （旧：生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻）	98.9%	98.7%	98.4%

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学への志願者数等は【資料 2】のとおり減少傾向にある。

リクルート進学総研マーケットリポート「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率・地元残留率の動向」【資料 3】によると、令和 6（2024）年の 18 歳人口は 106.3 万人であり、令和 11（2029）年までは同等あるいはそれ以上の人口が

維持される見込みである。しかしながら、令和 12（2030）年以降は減少傾向に転じ、令和 15（2033）年には 101.4 万人（令和 6（2024）年比：約 95.4%）となることが推計されている。

本学保育科及びライフデザイン学科志願者の 9 割以上を占める近畿 2 府 4 県（滋賀県、兵庫県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県）の 18 歳人口は、令和 5（2023）年から令和 17（2035）年にかけて 23,357 人（全国値：126,987 人）減少し、人口減少率は 12.9%（全国値：11.6%）と予測されており、エリア別 18 歳人口減少数は全国で最も大きい。学生確保の観点から 18 歳人口の減少が本学にもたらす影響は大きいと考えられる。

また、短期大学への進学者数が全国的に低下する中で、4 年制大学への進学者数は年々上昇している。平成 26（2014）年の進学率は 48.1%であったが令和 5（2023）年には 56.9%となっており、10 年間の間で 8.8%上昇した。一方短期大学への進学率は低下し、2014 年の進学率は 5.3%であったが、令和 5（2023）年には 3.4%となり 10 年間で 1.9%低下した。また、本学への志願者の 9 割以上を占める近畿では、低下率が全国で 2 番目に高い数値となっている。

この現状から、入学定員の適正化が必要であると考えられる。

③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

文部科学省「学校基本調査」のデータによると、大阪府に所在する私立短期大学の令和 5（2023）年度入学者は 3,112 人であり、そのうち出身高校が近畿圏に所在する入学者数は 2,630 人（84.5%）である。入学者が多い都道府県は、降順に大阪府 2,089 人、兵庫県 180 人、奈良県 151 人、京都府 110 人、和歌山県 100 人となっており、近畿圏出身高校の入学者が多い。

本学の過去 5 年間（令和 2（2020）年度～令和 6（2024）年度）の入学者のうち、都道府県別出身高校の学生割合は【資料 4】のとおりである。

過去 5 年間の平均値は大阪府が 65.2%、兵庫県が 1.2%、奈良県が 21.4%、京都府 1.2%、和歌山県が 7.6%となっており、大阪府に所在する出身高校の入学者を獲得することができている。

④既設組織の定員充足の状況

本学の令和 2（2020）年度～令和 6（2024）年度における定員充足の状況は「既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）」【別紙 2－1、2－2】のとおりである。

保育科は、令和 3（2021）年度より収容定員充足率 0.7 倍を下回っている。短期大学への進学者数の低下や保育士を目指す高校生の減少が要因と考えられる。このことから、収容定員の充足率を満たせるよう 240 人から 80 人へと減員する。ま

た、ライフデザイン学科も収容定員充足率 0.7 倍は上回っているものの、収容定員を満たせていないことから 200 人から 80 人へ減員し定員充足率の適正化を図る。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学では、オープンキャンパス（学校見学会を含む）や高校内説明会などの高校訪問による対面での PR 活動に注力している。オープンキャンパスでは、入試説明、各学科の模擬体験授業、入試や学生生活等の個別相談コーナー、キャンパスツアーなどを実施し、各学科の特色や学内の雰囲気直接向伝えている。「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」【別紙 3】の①をみると、オープンキャンパスに参加した受験対象者のうち保育科では約 40%、ライフデザイン学科では入学者の約 50%が実際に本学へ入学していることがわかる。また直近 2 ヶ年の入学率がどちらの学科においても上昇していることから、対面での PR 活動は効果があると考えられる。

「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」【別紙 3】の②は本学が、当該年度の入試において、資料請求やオープンキャンパス、高校内説明会を通して情報収集することができた全受験生の数値である。この数値から、本学が行う各媒体による非対面での PR 活動、高校訪問やオープンキャンパスによる対面での PR 活動の双方が受験率及び入学者数の数値に良い影響を与えたと考えられる。

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

(3) ①アで記載したとおり、本学は対面による PR 活動に注力しており、オープンキャンパス参加者の入学率が約 40%から 50%である。

保育科では、オープンキャンパスや校内説明会等で高校 1、2 年生の段階から保育科独自のカリキュラムや指導教員の手厚いサポートなどを説明し、実践的な模擬体験授業を開催することにより志願者増加につなげる。

ライフデザイン学科では、学科の幅広い学びを体験できる参加型模擬授業を開催し、多様なニーズを持つ高校生の志願誘引を図る。

令和 6（2024）年度実施計画・目標は、①オープンキャンパスの 12 日間開催計画：目標参加者数 400 名、②短期大学部教員の高校模擬授派遣：派遣目標 10 件、③高校訪問：目標 300 校、④連携校の学校見学会：目標 10 件とする。

高校生や高校教員との接触機会の創出を図り、入学生の獲得を図る。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

本学の入学者のうち、オープンキャンパスに参加したことのある者の割合は、直近2ヵ年において、約60%から68%（保育科：約50%から65% ライフデザイン学科：約69%から71%）の幅で推移している。つまり、平均すると約65%の受験生をオープンキャンパス経由で獲得し、約35%はそれ以外で獲得しているのが現状である。

これを令和7（2025）年度以降に予定している入学定員に置き換えた場合、50人（保育科：22名 ライフデザイン学科：28名）をオープンキャンパス経由で獲得し、30人（保育科：18名 ライフデザイン学科：12名）をそれ以外で獲得することができれば定員の充足が可能となる。

前述の目標をもとに活動を行い、オープンキャンパスの参加者の入学率50%を維持した場合、参加者における受験対象者数を100人以上（保育科：45人以上 ライフデザイン学科：55人以上）集めることができれば、入学定員の充足が可能となることから、オープンキャンパスの参加者に対して、本学の魅力を訴求し、確実に入学まで結びつけることが必要となる。

令和6（2024）年度入試ではオープンキャンパス参加者における受験対象者数は147名（保育科：53名 ライフデザイン学科：94名）であったことから、この数字を令和7（2025）年度以降も維持することができれば、入学定員の確保は可能である。

入学定員の充足が難しい状況である保育科についても、同様の学問分野を保有する近隣校（大阪芸術短期大学部保育学科）が令和6（2024）年度入学生を以って学生募集停止となったことを受けて、一定数の志願者が本学へ流れることを予期している。

（2）②で記載したとおり、社会的動向等もあり、短期大学全体として志願者総数が減少している中であることから、学生募集を停止する短期大学も増加傾向にある。その中で一定の志願者が存在することは事実であるため、本学の不断の努力によって、今後においても設定した入学定員の確保は可能だと考えており、80名（保育科：40名 ライフデザイン学科：40名）の入学者を見込んでいく。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

保育科の競合校：

名称	学科	入学定員	入学金	授業料
大阪健康福祉短期大学	子ども福祉学科	50名	200,000円	750,000円
四天王寺大学短期大学部	保育科	40名	200,000円	837,000円

<競合校の選定理由>

大阪府内の短期大学で立地が近隣であり、学問分野、定員規模も類似しており、入学金も同額であることを踏まえ競合校を選定した。

<競合校との比較分析>

本学では、実技系の授業を体験できるプレエントランス・フェスティバル（入学前模擬授業）を実施しており、造形、運動遊び、音楽など実際に体験することができ入学後の不安を軽減するとともに、4月からの学びにスムーズに打ち込むことができる。また、キーボードの貸し出しや、入学手続き者を対象に初心者向けピアノ講座を開くなど入学前からのサポートが充実している。

ライフデザイン学科の競合校：

短期大学	学科	入学定員	入学金	授業料
大阪成蹊短期大学	生活デザイン学科	60 名	250,000 円	1,020,000 円
四天王寺大学短期大学部	ライフデザイン学科	40 名	200,000 円	837,000 円

<競合校の選定理由>

府内の短期大学で同じ系列の学問分野であり、定員規模も類似していることを踏まえ競合校を選定した。

<競合校との比較分析>

本学では、ビジネス・ICT、ファッション、インテリアなど8つのフィールドを設けており、自分の興味・関心のある授業を組み合わせることができる。また、授業は半年ごとに見直せるため、進路はいつでも変更することもできる。そのため、幅広い教養を身につけながら、多様な就職先を検討することが可能である。

また、入学金、授業料ともに本学の方が低く設定されており学生への負担が少ないと言える。

イ 競合校の入学志願動向等

本学と競合校の過去3年間の入学志願状況等（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率）は【資料5】のとおりである。しかし、競合校の入学志願状況などホームページ上へすべての情報は公開されておらず、公開されている情報のみ記載している。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

本学の令和6（2024）年度入学者数は、保育科が44人、ライフデザイン学科

が 72 人である。また、直近 3 年間の入学者数の平均値は保育科が 62.0、ライフデザイン学科が 80.3 であることから、入学定員の 40 名はどちらの学科においても定員を充足することができると思われる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学の入学金、授業料等の学生納付金は下表のとおりである。

入学金：200,000 円

	夏学期	冬学期
授業料	418,500 円	418,500 円
運営維持費	90,000 円	90,000 円
施設拡充費	90,000 円	90,000 円
計	598,500 円	598,500 円

学生納付金は、本学の運営上の財務的状況、教育研究環境の充実等を勘案したうえで設定した。

「既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）」【別紙 2－1、2－2】のとおり、入学定員未充足の状況が続いており、近年においては、志願者数が入学定員に満たない状況である。令和 7（2025）年度から収容定員の見直しを図るとともに、入学定員を確保する方策として令和 7（2025）年度入学生から入学金を 300,000 円から 200,000 円に減額することとした。

この学生納付金の設定は、学生確保を確実に遂行し、また健全な経営に努めるにあたり妥当であると考えている。

（４）収容定員を変更する組織の定員設定の理由

本申請は、令和 7（2025）年度より本学保育科の入学定員を 120 名から 40 名、ライフデザイン学科の入学定員を 100 名から 40 名に減員し、収容定員を 440 名から 160 名に減員するものである。

保育科は、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」により「演習・実習」科目の 1 クラスあたりの履修人数を 40 人以下で開講することと規定されている。

ライフデザイン学科においては、学びを実践する「実習・実技（ファッションやインテリア、ネイルなど）」科目が多く、授業で頻繁に実習室を使用するため、本学の実習室の収容人数である 40 人程度が適当であるとする。

18 歳人口や短期大学進学者数が減少傾向にあることも踏まえた上で両学科の授業運営上について考慮した結果、「入学定員 40 名・1 クラス編成」が適当であると考え入学定員を 40 名と設定した。